

◆ 今週のコメント

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は7.39(303例)で、前週 5.98(245例)から増加しており、4週連続で増加しています。全国でも同様に増加しています。
今冬においても、すでに複数の検体からノロウイルスを検出しています。動向にご注意ください。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.51(62例)で、前週 2.00(82例)より減少したものの、過去5年平均値を上回っています。例年、冬から夏前まで報告数が多い状態が続きますので、今後の動向にご注意ください。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.05(43例)で、前週 1.17(48例)より減少したものの、依然として過去5年平均値を上回る状態が続いています。また、「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降の同時期と比較して、最も多い報告数となっています。全国でも同様に最も多い定点当たり報告数となっています。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は0.38(26例)で、前週 0.19(13例)に比べ倍増しており、3週連続で増加しています。
平成25年12月13日、京都市内の病原体定点医療機関より採取された検体から、京都市内で今シーズン1例目のインフルエンザウイルスB型が検出されました。全国では、第36週以降、A/H3型(香港型)が最も多く分離・検出されています。

◆ 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.85(35例)で、第46週(11月11日～11月17日)以降、4週連続で増加しており、本年で最も多い報告数となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 3例(肺結核 1例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 360例(肺結核 190例, その他結核 87例, 潜在性結核感染者 83例)うち喀痰塗抹陽性 110例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.38	26
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.39	303
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.51	62
	③ 水痘	1.22	50
	④ RSウイルス感染症	1.05	43
	⑤ 咽頭結膜熱	0.85	35
眼科	流行性角結膜炎	1.20	12

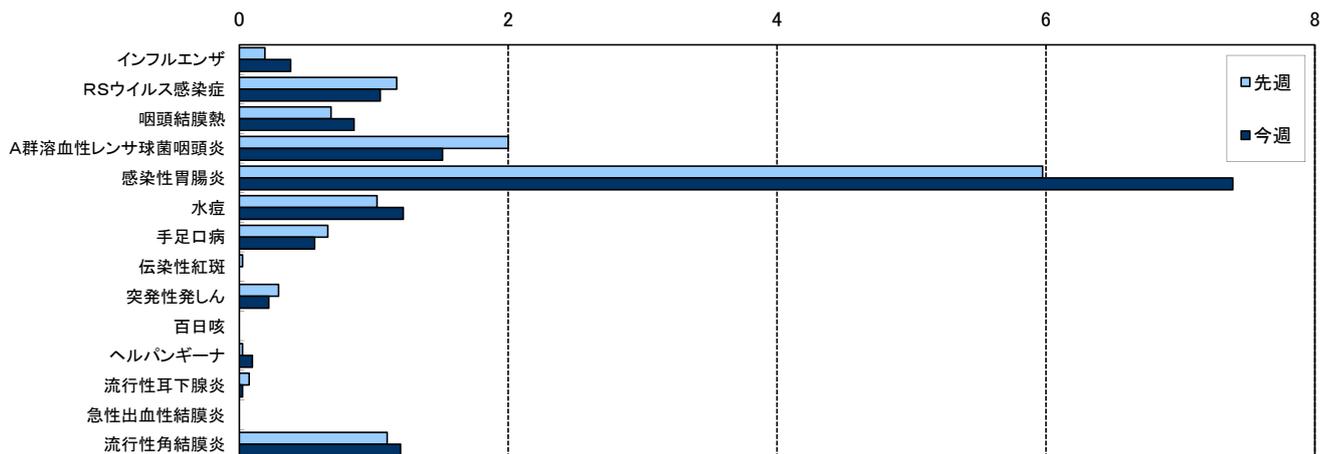
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

(注) 京都市のデータは、平成25年12月12日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

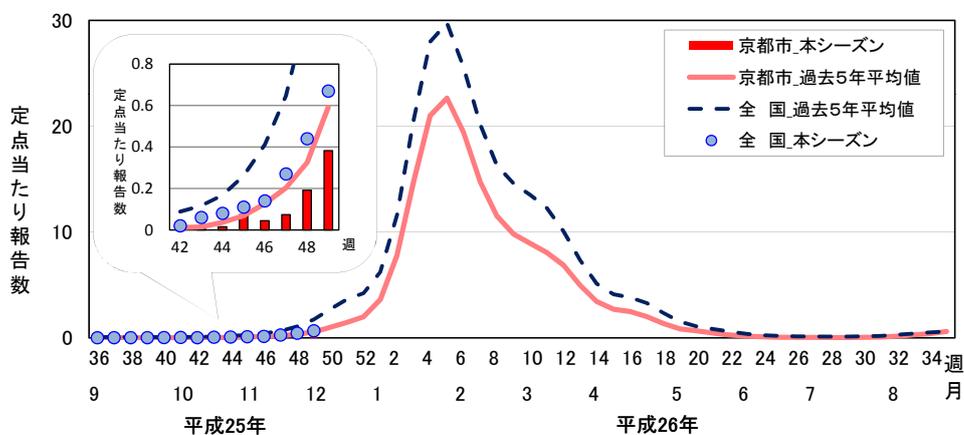
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第49週)と先週(第48週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第45週	5
第46週	3
第47週	5
第48週	13
第49週	26
累積報告数 (第36週以降)	58

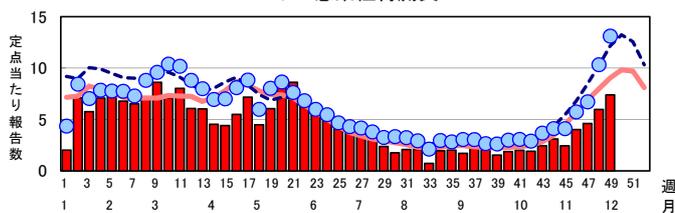


※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

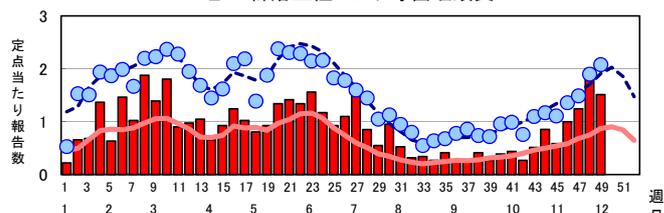
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

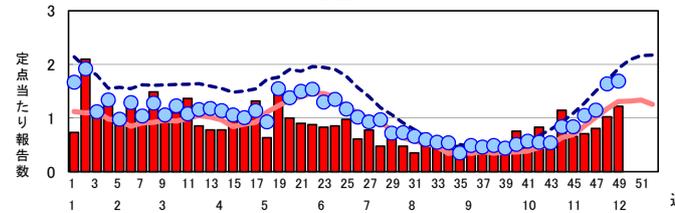
1 感染性胃腸炎



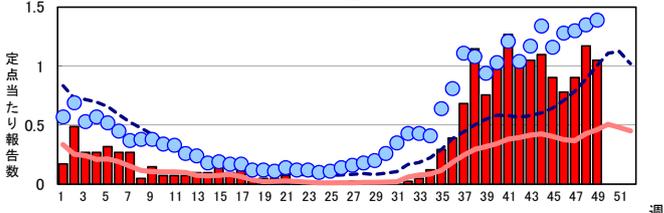
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



3 水痘

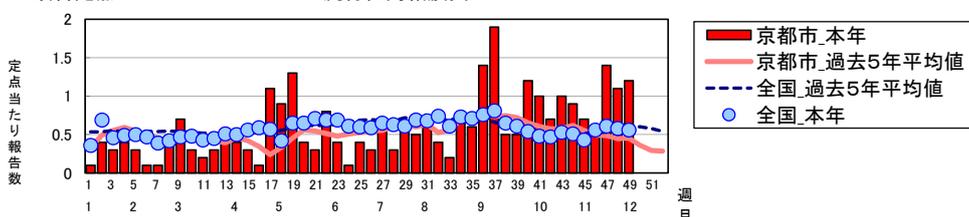


4 RSウイルス感染症



<眼科定点>

流行性角結膜炎

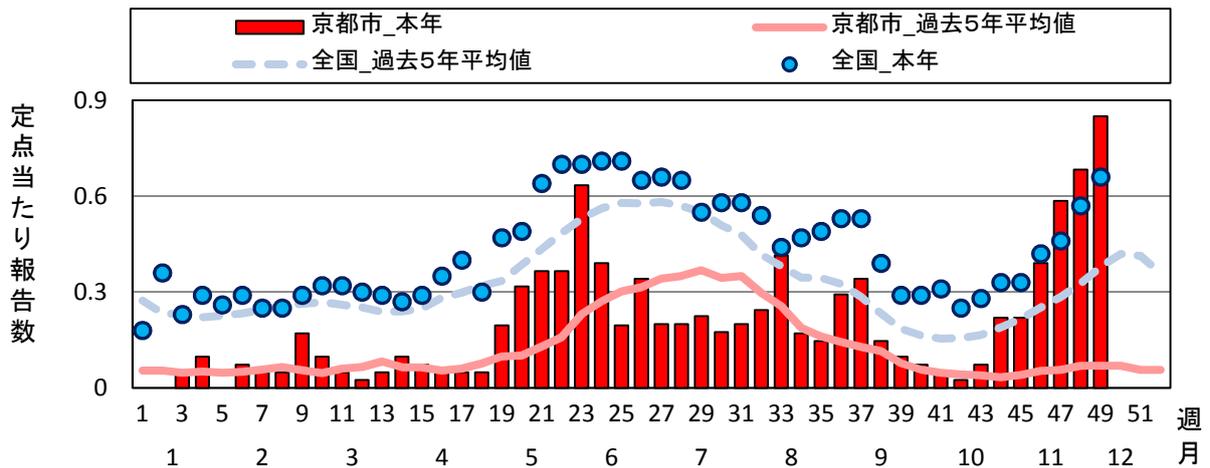


第49週(12月2日～12月8日)トピックス: <咽頭結膜熱>

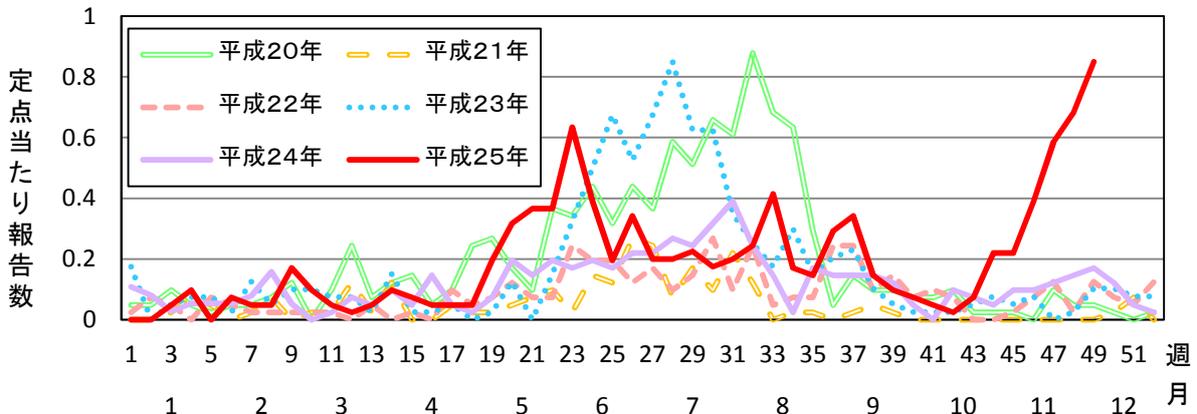
咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.85(35例)で、第46週(11月11日～11月17日)以降、4週連続で増加しており、本年度で最も多い報告数となっています。全国の報告数(0.66)も4週連続で増加しています。本年6月に流行のピークを迎え、9～10月にかけていったん落ち着きましたが、11月以降増加に転じています。今後の動向にご注意ください。

都道府県別においては、30道府県で前週より増加しています。そのうち近畿6府県では、3府県(京都府、滋賀県、兵庫県)で増加しています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



本市の定点当たり報告数の年推移



都道府県別定点当たり報告数の推移

